



富士の民話 あれこれ

鷹岡本町から滝戸へ行く途中、龍巖橋という橋を渡ります。その橋の下で岩肌をのぞかせる場所が「龍巖渕」。まさに龍が通り過ぎた後のような景観が広がります。

今回は、龍巖渕のそばにお住まいの鈴木さんから、龍神にまつわるお話を伺いました。

龍巖渕のお膳

りゆう
がん
ぶち
ぜん

昔、滝戸村の名主の家で婚礼がありました。ところが、必要な百人前の膳椀がどうしてもそろいません。困った名主は、下男を探し回りましたが、どうしても見つかりません。下男は疲れ切って龍巖渕の岩の上にしゃがみ込み、「やれやれ、婚礼は明日だというのに膳椀が見つかないと、途方に暮れています。すると、「これこれ、そこで何をしておる」という声がしたのです。後ろを見ると、白いひげのおじいさんが立っていました。下男が「実は、明日の婚礼に使う百人前の膳椀がなくて困っています」と言うと、おじいさんは「そうか、それでは明日の朝早く、この岩の上に立つて願い事を言え。わしは、この渕の龍神じや」と言つたかと思うと、スーッと消えてしまいました。

下男は、次の朝、岩の上で「龍神様、どうか百人前の膳と椀を貸してください」と言いました。すると不思議なことに、水の上に百人前の膳と椀がブカブカと浮いてきたのです。

そのおかげで無事に婚礼を済ますことができました。翌日、下男は膳椀を丁寧にふき、お礼を言つて渕の中へ返しました。その後、その話を聞いた村人たちも借りるようになりました。しかし、ある年、隣村の名主の家で法事があり、龍神様から膳椀を借りたのですが、返すときになつてみると、なぜか一つ足りません。そして、「一つぐらいわからないだろう」と、黙つて渕の中へ返してしまいました。

ところが、それからというもの、ほかの人がいくら願い事を言っても、願いがかなることはなかつたということです。

龍巖渕は、「立願渕」とも書きます。きっと、龍神様が願い事をかなえてくれることから、そのように書くのかも知れませんね。

今では、めつきり水量が減つてしましましたが、その昔は、大雨が降ると、激しい濁流が橋のすぐ下の高さまで達するほどだったんですよ。そのいきおいといい、その轟音といい、まさに龍が駆け抜けていくようでしたね。

鈴木幹枝さん（岩本）



こちら編集室

今回の特集は、「救急救命24時」。救急隊の活動に24時間密着しての取材を敢行した。

正直言って、待機中は暇なのかと思ったらとんでもない。報告書作成や訓練などで忙しいばかりか、いつ出動命令があるのかと、食事やトイレも気が抜けない状態だ。

また、救急車へ便乗した際、一般車のマナーの悪さが目についた。速やかに進路を開けなかつたり、不法駐車が行く手を阻んだり…。さまざまな面における自分自身への戒めを含め、救急隊の皆さんへの日ごろの苦労には、本当に頭が下がる思いがした。（M2）

人口 234,367人
男 116,795人 女 117,572人
世帯 74,861世帯（8月1日現在）
発行・編集 富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123



広報ふじは再生紙を使用しています